

## 助成対象事業成果報告書(概要版)

制度名	情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金
助成対象事業名	視覚障がい者向け歩行支援サービスの開発
助成対象事業者名	株式会社コンピュータサイエンス研究所
助成金の額	8,153 千円

### 【助成対象事業の全般について】

① 助成対象事業の概要	視覚障害を持つ方の安心安全な歩行を支援するスマートフォンアプリの開発(健常者が利用可能なナビゲーションサービスを視覚障がい者も利用できるように、歩道上の障害物情報を音声で伝えることで情報を補完する。)
② 助成対象事業の目標	目的地までの経路案内、進行方向および障害物の通知を行う本サービスにより、視覚障がい者の制限されない自主的な外出機会の増加に貢献する。

### 【令和4年度実施部分について】

③ 助成対象事業の実施内容	<p>下記の開発課題解決に向けて事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンズフリー音声操作対応</li> <li>・横断歩道の向き、長さ通知機能開発</li> <li>・体の向き合わせ機能開発</li> <li>・経路案内の最適化</li> <li>・利用規約の作成</li> <li>・取扱説明書の作成</li> <li>・AI 学習用データセット作成</li> <li>・アプリ各機能の総合試験</li> <li>・性能評価のフィードバック</li> </ul>
④ 助成対象事業の成果	<p>当初の計画通り令和5年度の役務提供に向けた課題解決に取り組み、概ね目標を達成できた。</p> <p>横断歩道の向き通知機能に関しては、特許出願まで至った。体の向き合わせ機能、経路案内の最適化、利用規約の作成、取扱説明書に代わる使い方説明機能の作成は、正式機能として本アプリへの組み込みまで終えることができた。また、AI 学習用データセット作成は内製化が完了した。現在、45,562 枚の画像に対して、768,216 件のデータを保有している。</p> <p>一方でハンズフリー音声操作対応および横断歩道の向き、長さ通知機能は本アプリへの組み込みには更に検証が必要のため次年度も継続して開発を続けていく。</p>

		<p>ベータ版アプリ利用者数は現在 41 名おり、日々フィードバックを受けている状況。また、これまでに社内向けは 152 回、ベータ版は 7 回バージョンアップを行っている。</p> <p>今年度に出展した展示会は以下の通り。  2022 年 7 月 視覚障がい者向け生活用具・機器展示会@名古屋  2022 年 9 月 共生社会ホストタウンサミット@伊勢  2022 年 10 月 日本ライトハウス展 2022@大阪  2022 年 11 月 暮らしを変える目の福祉機器展 2022@福岡  2023 年 1 月 広島市視覚障害者情報センターまつり@広島  2023 年 3 月 見えない・見えにくい方のための福祉機器展@和歌山(予定)</p> <p>協賛については現時点で既に計 6 社からの賛同をいただいている。また、今年度の主な実績は以下の通り。政府、自治体、大手企業にも注目いただいている状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年 8 月に内閣府のデジタル田園都市国家構想のデジ田甲子園において、群馬県前橋市と連携し「めぶく Eye」としてアイデア部門における内閣総理大臣賞を受賞。</li> <li>・三重県伊勢市からは、「多様な主体を受け入れる観光バリアフリー支援調査」の依頼を受け、伊勢神宮外宮参道における実証実験を令和 4 年 9 月および 12 月に実施した。</li> <li>・参天製薬等の「VISI-ONE アクセラレータープログラム」に採択され、令和 4 年 10 月に東京丸の内エリアにおいて実証実験を実施した。</li> <li>・トヨタモビリティ基金の「Make a Move Project」に採択され、令和 4 年 10 月に岡山国際サーキット、11 月に鈴鹿サーキットにおいて実証実験を実施。</li> <li>・令和 4 年 12 月に河野デジタル大臣が Eye Navi にオペレーターサービスを付加した「ダイアログ・アイ」を体験。</li> <li>・令和 5 年 1 月に NHK 福岡放送局の取材を受け、ロクいち！福岡にて「視覚障害者の外出支援アプリ開発最前線」として報道される。</li> </ul>
⑤	補足説明事項	